



共に伸びゆく 「成長家族」に

夏の^{ひざ}日差しを受けて、まっすぐに^{くさ}茎を伸ばし、^{たいりん}大輪を咲かせるヒマワリ。太陽に花を向ける性質から「日輪草」、英語では「サンフラワー」とも言われている。

ひたむきに太陽を求めて咲く姿は、画家ゴッホを魅了した。ロシ

アでは、その種子が食用として人々を助け、国花となった。写真は2004年（平成16年）8月、長野研修道場を訪れていた池田名誉会長が、撮った1枚である。

「ひまわりの^{あおぞら}笑顔の花の 未来部よ 希望の青空 強く伸びゆ

け」——かつて名誉会長は詠んだ。夏休みも終盤のきょう、各地で「創価ファミリー大会」が、たけなわ。家族で、地域で、子どもたちを「未来の大指導者」と尊敬し、若い心の大地に後継の種を残していきたい。

子どもたち一人一人が、
家族の宝であり、
社会の宝であり、
世界の宝である。
未来の宝であり、
人類の宝であり、
かけがえのない
創価の宝なのである。

だからこそ、真剣に、
正義の心を伝えなければならない。
それが「未来への責任」である。

子どもは本来、

「伸びよう」

「成長しよう」という

生命の勢いを持っている。



南米コロンビアの「創価家族」にエールを送る池田名誉会長。子どもたちにも最敬礼。「希望をもって、あせらず、仲良く」と（1993年2月、首都ボゴタで）

私は、子育てとは基本的には、
この子どもの生命力の流れを
正しく導き、
成長をはばむものを
取り除いてあげることだと思
っている。

信心は「知恵」として表れる。

聡明になり、

賢明に生きるための信仰である。

学会活動に戦った親の福運は、

必ず子どもを守っていく。

それを確信したうえで、

対話のための

具体的な努力をすることである。

どうか、わが家らしい

工夫を重ねながら、

「親子一体」の向上の軌道を

進んでいただきたい。

家族の一人一人が、

ヒマワリの一本一本のように

「夢」という太陽に

顔を向けて生きる。

天空に向かって伸び続ける――

そんなヒマワリ畑のような

「成長家族」こそ、

子どもの可能性を育む

大地となるにちがいない。